

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>(ア) アンゴラ共和国・ベンゴ州における地雷被害の局限と地域復興に寄与</p> <p>(イ) 機械による地雷処理技術等を移転し、自立処理能力を向上</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) 地雷処理 アンゴラ地雷除去・人道支援委員会（CNIDAH）及びベンゴ州行政府と緊密に調整し、機械を使用した地雷処理作業を実施し、約20haの安全化を図る。</p> <p>(イ) 地元隊員に対する技術等の移転 JMASと共に事業実施中の現地地雷処理機関（国家地雷除去院：INAD）の隊員12名に対しOJT等を通じて、①地雷除去に関する技術（地雷除去機の操作、整備）教育と同時に、②マネジメント（事業運営管理・経費管理・安全管理など）に関するキャパシティビルディングを行い、事業を通じた技術移転により目標とするレベルに達した隊員の入れ替えをINADと連携して実施する。</p> <p>(ウ) マブバス村の地域復興支援（一部自己資金） 地雷処理活動を行う地域の居住地において、①道路等整備、②危険回避啓蒙教育を行うとともに給水設備管理、農業心育成及び地域清掃支援等を行い、生活環境を改善するとともに住民に対し地域復興について啓発、啓蒙を図る。</p>
(3) 達成された効果	<p>(ア) 地雷処理 住宅建設予定地約15haを除去・安全化した。（2013年10月末現在） 別紙第1「地雷処理実績等表」</p> <p>(イ) 技術移転 INAD 隊員のリーダー1名、オペレーター要員3名、整備要員2名、車両操縦要員3名、救護要員1名、企画スタッフ1名、会計スタッフ1名の合計12名に対してそれぞれの能力・適性に応じた個人評価表を作成して指導している。前年度末の評価をもって2名の交代及び3名の配置替えを実施した。 なお、1時間当たりの地雷処理面積は前年度の380㎡から422㎡となり11%向上した。 別紙第2「成果指標統計」参照</p> <p>(ウ) 地域復興支援 ・5000L水タンクによる給水場を管理し、約500人の近傍住民に毎日（AM0600～0830、PM1400～1700）常続的に給水中であり、平均73名/日の住民が活用している。 別紙第2「成果指標統計」参照 ・新除去地へ人員・器機材等の通行及び運搬を可能にするよう道路を約2Km新設・拡幅した。2009年にJMASによってベース南側に敷設し維持補修を行っている州都カシトへのバイパス1km道路（通称：JMAS通り）の交通量は、2013年5月の調査時に比し減少したが、これは近傍のインフラ工事が一時中止となった</p>

	<p>ことによるものである。</p> <p>別紙第2「成果指標統計」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険回避啓蒙教育を8月29日、カトリック系の少年・少女約40名に対し、展示パネル、教場内展示の地雷・砲弾及び除去機等を使用し実施した。 <p>なお、本事業間の地雷・不発弾によるマブバス地区住民の死傷者は皆無であり、地雷・不発弾等を発見した場合、住民が自発的に弊会に通報するようになってきており、本事業間3回、対人地雷等発見の通報があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業心育成のため、マブバス地区の主要箇所を設置した花壇に植栽し、子供達に植物を育てる心を醸成中である。 ・清掃活動支援にあたっては、引き続き毎週土曜日午前中に、マブバス地区内のゴミ収集及びゴミ捨て場の穴掘り等清掃支援活動を実施中（本事業間10月末現在ゴミ収集22回実施。穴掘り数は10個）で、自発的に清掃を行う人々も増えており、地区内の道路及び公共場所等のゴミは少なくなっている。また、危険なガラス片、空き瓶の回収を子供の協力を得て実施し、注意を喚起している。
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>(ア) 地雷処理 ベンゴ州政府の住宅2,000戸建設計画に影響を及ぼさないよう、これから迎える夏季間の過熱による機材動作不良及び雨季間の泥濘地の対策等機材の運用、維持管理に留意しつつ実施する。</p> <p>(イ) 技術移転 隊員の評価で判明した欠落している基礎的事項を、重点的に教育して目標レベル到達を図る。</p> <p>(ウ) 復興支援 地元コミュニティと連携して、現事業を実施する。この際、事業の継続性に留意して逐次地元民への移転を図る。</p>